

1.3.8 デュアルラインにおける分配弁の配置と配管方法の決定

給油箇所を図面上に記入すると共に、分配弁の配置図を作成します。また、ポンプの特性およびメンテナンスなどを考慮してポンプの位置を定めます。（配管計画上からみるとなるべく中央が望ましい）配管方法にはループ方式、エンド方式の2種類があります。前述のシステム説明をご参照の上いずれかの方法を採用するか検討します。

	<p>ループの長さ = $A + B + C + D + E \dots$ 圧力に關係する長さ（主管）</p> <p>主管の配管長さは主管と同一サイズの時はそれぞれ $F < (B + C + D + E)$ $G < (C + D + E)$ $H < (D + E)$ $I < E$とします。</p> <p>またサイズの異なった配管を使用する時は、 分岐点から枝管末端までの圧力損失以下になるように計画してください。</p>
--	--

（エンド計画）

	<p>配管長さ = $A + B + C \dots$ 主管 圧力に關係する長さは $(A + B + C)$ 枝管の配管長さは主管の同一サイズの時はそれぞれ $D < (B + C)$ $E < C$とします。</p> <p>また、サイズの異なった配管を使用する時は、 分岐点から枝管末端までの圧力損失以下になるよう 計画してください。</p>
--	---

（給油間隔）

グリース潤滑において、ポンプ停止前の主管の圧力開放（圧抜き）が充分に行える運転間隔を設定してください。圧力開放（圧抜き）時間は主管長さ、グリース銘柄等により異なりますが目安として1時間以上行って下さい。試運転で各部への給油を早める為に連続運転を行いますと圧力開放が充分に行えない為に残圧として残り、これが蓄積されることにより、双方の主管が高圧になり給油不能になる場合もあります。このような場合はポンプを停止して圧抜きができるまでしばらく待って下さい。